

栄光園だより
第105号
2016年10月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
振込口座 01930-2-20748
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

どのようなにして

子は育つのか——私見

理事 池田 康 雄

永年高校の教師をし、部活動の指導をしていたこともあり、自分の二人の子育ては妻任せであった。しかし、その後学習塾で子どもを預かり、二十年近く栄光園に出入りし、また、二人の孫の育っていくのを見る中で、子どもはどのようにして育っていくのかの幾つかの断面が見えてきたように思う。

育つことにも大前提がある。種子も発芽するには適切な光や温度や水が欠かせないように、「子ども」には、まず降り注ぐ愛情が必要である。

これは、生きる条件で、育つための基盤であり、これだけで健全に育つとは思えない。逆説的に言えば、愛情だけで子どもは育たない。このことは親の後先考えない一途な愛によって子どもが悲劇に見舞われる話が数多くあり既に実証されている。

そこで、生命を得た子どもが健全に育つための幾つかの必須要素を導くことができれば、その要件を満たすことにより



すべての子どもが健全に育つことができようである。

従って、私は勇を奮ってその幾つかを提示し、皆さんが「健全な子ども」を育てることを考える素材を提供してみたい。次に挙げる要件を培っていく順序は不同です。項目と理由を述べてみます。

①「我慢」する心を覚えさせること。

人間の欲望に限りはなく、満たされれば次の段階に進むだけのことである。自分の欲がいつも叶えられるとは限らないことを認識させ、すぐにいじけない習性を会得させること。

②体験を数多く積み積ませ、経験を広げ、広げさせること。

人間の求められる力として、「想像力」と「創造力」とがある。けれど、貧弱な体験と経験ではこの力は育まれない。日々の小さな体験のチャンスを見逃し続け、折角の経験の機会を逃しながら生きてしまう。このことをもつたいたいと「子ども」と「その周囲の人」が

どれだけ胸に刻むことができるか。それが問題である。

③「言いたいこと」を整然と述べる力を身につけさせること。

人間は集団の中で生きる以外にない。当然、自分とは異なる感性や意見を持っている人の方が多いことを理解しなければならぬ。だからといって、いつも他人の言う通りに生きなければならぬ訳ではない。健全な自己主張はあっていいはずだ。しかし、その力は自然と身につくものではないだろう。つまり、養い、育てていかねばならない性質のものである。

このことを、「子ども」と「その周囲の人」がどれだけ意識し、実践できるかが、それが問題である。

④「してはいけないこと」を厳しく指摘できる人が側にいること。

「躰け」とは「してはいけないこと」を認識させ、その中には「しない方がよい」ことも含まれているように思える。その意味で、「躰け」は難しいと言える。私が言いたいことは、これを最小限に絞りこみ、「それだけは言ってもしてもいけない」と指摘、指導できる人が絶対に必要だと言いたいのだ。子どもはそういう日常の中から自己の規範を培うことになるのだから。

生意気にも子どもが健全に育つための四つの必須要素を掲げてみました。これに何を付け加えるべきか、また、どの項目は削るべきなのか。私は今後も考え続けてみたいと思いますが、ぜひ、皆さんも考えてみてください。そして、いつかこの問題で討論する機会があればと期待しています。

「栄光園」が更に充実するために…

児童養護施設

キャサリンホーム

夏休みの思い出

キャサリンホームは、8月19日〜20日にウエストホームと合同で、佐伯市瀬会海水浴場でキャンプをしました。

ウエストホームのお兄ちゃんたちと一緒に勇気を出して深いところまで泳ぎに行く子や泳げずに波打ち際で泳ぐ子もいました。バーベキューをしたり、花火をしたりとたくさん遊びました。

普段なかなか遊べない優しいお兄ちゃんたちと遊んだことが一番の思い出です。

